

風炉・盆点

* 文琳・丸壺等の唐物茶入を盆にのせて扱う点前。（※茄子茶入の場合は、茶入の扱いが真の扱いとなり、以下の扱いとは少し相違がある）

* 茶碗は台天目ではなく、格の高い高麗茶碗推奨。（台天目を使う場合は「台天目&盆点」の点前でおこなう。有楽流においてはこちらの「台天目&盆点」の点前のほうがオーソドックス）

* 貴人を迎える場合は、唐物茶入でなくとも盆に載せ、「台天目&盆点」の点前でおこなう。

水指前に盆にのせた茶入を飾り付けておく（初めから盆茶入・茶碗と並べて水指前に飾り付けておいても良い）

《点前手順》

仕組んだ茶碗を運び出し、常のように居前に置いて盆茶入を右に寄せて茶碗を左手で盆茶入の左に飾り付ける。

仕組んだ建水（柄杓・蓋置が飾ってあるならば建水のみ）を持ち出し、左膝横に置き、柄杓を左手で取って右手に持ち替え、左手で蓋置をとって右手の柄杓と持ち替え、右手で蓋置を風炉左脇に置き、そこに柄杓を引く。

最初の挨拶。

茶碗を左手で取って右手で居前に置く。

盆を両手で右膝脇に引き寄せて置く。

茶入を取って居前（茶碗の前）に置き、仕覆を脱ぎかけ（緒を解きかけ）にして、茶碗の左あたりに置く。

帛紗を取って行に捌き、盆を両手で取って帛紗で清め、また盆を水指前に置いて帛紗を腰に納める。

（行の清め方は、四方盆など角盆は「う」のように丸味を付けて清め、丸盆は「ラ」のように一直線に角ばらせるように清める）

右手で茶入を取り、仕覆を脱がせ、右手で居前に置く。

仕覆を定所（建水の後ろ等）に置く。

帛紗捌き（行）して左手に持たせ、茶入を右手で取って左手の帛紗と持ち替え茶入は左手で持ち、常の通り茶入を清め、また帛紗と取り替えて右手で水指前の盆の上に置く。

再度帛紗を行に捌き、常の通り茶杓を清め、盆の上、茶入の左側に置く（盆の縁から切留が少し手前に出るように）。

帛紗を左手に持ちながら茶笥の綴じ目を見て建水の肩の方に置く。

帛紗を左手に持ちながら右手で茶碗を少し前に寄せる。

帛紗を右手に取り水指の蓋を軽く拭き帛紗を左手に移す（塗蓋の場合）。

茶巾を取り水指の蓋上へ置く。

柄杓を右手で取り、左手の帛紗と持ち替え、帛紗で釜の蓋を閉めて蓋上を清め、釜蓋をあけて蓋置に置く。

帛紗を腰に付ける。

柄杓を右手に持ち替え、湯を一杓汲み茶碗に入れる。

柄杓を構えて釜の蓋を閉め、柄杓を蓋置に引く。

茶笥を取って茶笥打ちを三回おこない、さっと茶笥を振り、茶笥を元の場所に戻す。

茶碗を取って、逆廻しにさっと回す

茶巾を取って右手に持たせて右手は膝上におき

茶碗の湯を捨て、茶巾で露を切り、
茶巾を茶碗のなかに入れる

茶巾をひろげ、茶碗の外・内を拭く

茶碗を置いて、茶巾を畳み直し、茶巾を水指蓋上に置く

(※手の湿りを取る)

右手で茶入を取り、左手に渡し、右手で蓋をあけて、蓋を盆の中央真中か中央手前のところに置く。

その手で茶杓を取って、茶入から茶碗に茶を掬い入れ、入れ終えたら茶杓は茶碗にわたし掛けておく。

帛紗で茶入の口をさっと清め、帛紗はすぐに腰に戻す。

茶入の蓋をして、茶入を右手に渡して、右手で茶入を盆の上の元の所に戻す。

茶杓を取って茶碗のなかの茶をよくこなし、茶碗の縁で茶杓を打って茶を落とし、左手であしらって、元にあった通り盆に置く。

柄杓を取って左手に持たせ、右手で帛紗を片手捌きし、
帛紗で釜の蓋を取って蓋置に置く

帛紗を腰に納める

湯を汲み、適量を茶碗に入れ、残りの湯を戻して柄杓を釜に掛ける

茶を点て、茶筴を元のところに戻す

茶碗を右横に仮置きして振り向く

茶の点て具合を確認し、茶碗を客に向けて出す

出帛紗（替和巾）を取り出し、
◆の形に客に向けて茶碗の下座に置く

※やがて客から服加減の挨拶

服加減の挨拶後、中仕舞い

柄杓を取って左手に移し、釜の蓋をする

蓋置を少し手前に出して柄杓を真っ直ぐに引く

（蓋置を引き出さず、始めの通り居前に向けて引いてもよい）

出帛紗（替和巾）が戻ったら取り込んで懷中

中仕舞いを解く

柄杓を取って左手に持ち替え、蓋置を元の位置に戻し、帛紗を片手捌きして釜の蓋をあける

蓋置に釜の蓋を置き、帛紗を腰に納める

柄杓を釜に掛ける

茶巾を釜の蓋上に移す

水指の蓋をあける

（右手で取って左手に持たせ必要ならば露を切り右手で水指の右に置く）

（手桶の場合は両手で手前の蓋を取り左手で裏返して左手で後ろの蓋上に置く）

茶碗が戻ったら客付に振り向き、茶碗を取り込んで茶碗内を確認

次いで茶の園香を聞く

風炉に向かい、茶碗を居前に置く

柄杓を取り、一杓湯を汲んで、茶碗に入れる

柄杓を釜に掛け、茶碗を取って、よく回して茶を落とす

湯を捨てて、茶碗を居前に置く

（※後ほど薄茶を差し上げる旨の挨拶）

柄杓を取って左手を添えて持ち直し、水を一杓汲んで茶碗に入れる

柄杓を釜に掛ける

茶筴を取って茶碗に入れ、
茶筴打ちを一度して茶筴をすすぐ

茶筴を元の通りに置き、茶碗を取って水を捨てる

茶碗を居前に置く

茶巾を取って茶碗に仕込む

茶筴を取って、左手を添えて持ち直し、
綴じ目を上にして茶碗に仕込む

帛紗を取って捌き、二つ折して上の角を折り込む

茶杓を取ってまず一度拭く

帛紗の上の角の折り込みを外して再度拭く
(折り込んだまま再度拭いても良い)

帛紗に茶が付いていたら建水上で払う
(茶杓を持ったままでよい)

再度捌いて二つ折りし、そのまま茶杓の追取を拭く

茶杓を茶碗にわたして掛ける

帛紗を腰に納める

盆（茶入）を水指真ん前から右側にずらす

茶碗を右手で取って茶入の左に左手で茶入と並べて置き合せる。

柄杓を取って、合を水指の前の縁に仰向けに掛けて持ち直し、適宜に水を汲んで釜に入れる

水を入れ終えたら湯返しをする

釜の前の縁に柄杓の合を掛けて持ち直す

柄杓を左手に持ち替えて構え、右手で釜の蓋をする

そのまま右手で蓋置を少し手前に移す

柄杓の合をその蓋置の上に置き、
左手で建水を引いて、その建水の縁に柄杓の柄を掛ける

左手で水指の蓋を取る
(常の水指の場合、どうしても取り難ければ右手で)

右手に持ち替え水指の蓋を閉める

客からの拝見の所望を受ける

盆（茶入）を取って客付に振り向き、居前に置く。

茶碗を水指真ん前に移す。

帛紗を行に捌き直し左手に持たせ、右手で茶入を取って左手の帛紗と取り替え、右手で帛紗を持って茶入を常の通り清める

左手は茶入を持ったまま、右手で右膝の上で帛紗を捌き直し、前の通り盆を清め、また右手の帛紗と左手の茶入を持ち替えて右手で茶入を盆の上に置き、帛紗を袂に入れる。

盆（茶入）を取って向きを変え、客付に出す。

仕覆を取って茶入の下座に出し、茶杓を取って客付きに向け仕覆のつがりのあたりに茶杓の節上がくる程度に置く。

風炉前に戻って柄杓・蓋置を右手で持ち、左手で建水を持ち、逆回りにまわって水屋に下がる。

また出て茶碗を持って下がる。

（運び水指ならまた出て水指を引く）

三器が戻ったら出て、客付に座り、盆（茶入）を縁内居前に取り込み、仕覆を盆の左手前、茶杓をその上に載せ、戻る。